

国立天文台・天文情報センター・アーカイブ室 中桐正夫

＊「応永2年曆断簡」と書かれた箱に入った乾板について

国立天文台天文情報センター・アーカイブ室では国立天文台の旧図書館に残された写真乾板の整理を行っている。旧図書館の写真乾板については S 氏を中心に進めている。旧図書館には天体写真乾板以外の雑多な乾板などが保管されていることが判明した。S 氏は天体写真乾板の整理を担当し、その他雑多な乾板については筆者引き受け、整理し、リストを作成すると同時に画像データとしてデジタル化する作業を行っている。この作業について順次報告して行くが、今回は内寸 6.5cm×9cm の小さな乾板の箱に入っていた乾板について報告する。箱の表には「応永2年曆断簡」と書かれている（写真1）。

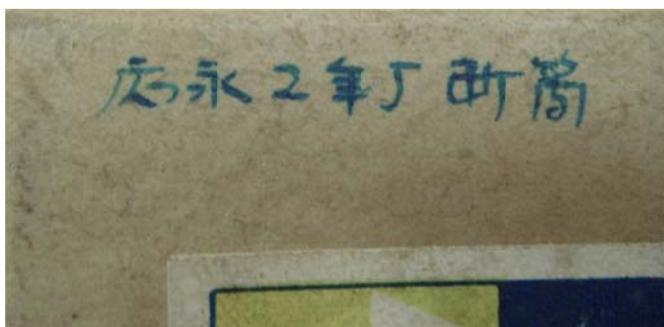


写真1

中には古い書類を複写した乾板 6枚が入っていた。筆者にはこれらを解読する力がない。そこでここにそれらを掲載し、古暦の研究者の目に留まれば、何か情報が得られる、あるいは何かの役に立つのではと思っている次第である。写真2が箱の全体像である。

なにぶん画像の質が悪く、解読には苦勞すると思うが、何かの役に立てばと思う次第である。



写真2

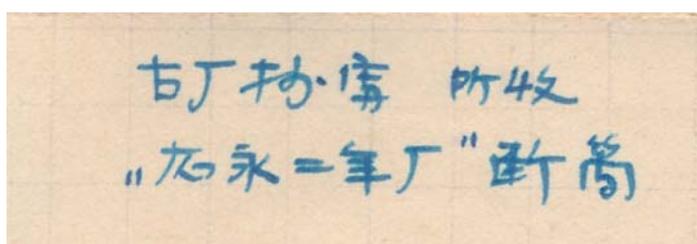


写真3

写真3が6枚の乾板を束ねていた帯封である。写真4が、これらの乾板が入れられていた袋は暦とは関係ない天体写真乾板用に作られたと思われる袋である。

撮影日	昭和	年	月	日	午前	時	分
場所							
天候							
鏡玉	{ 紋 } スクリン						
原板種類						溶着焼	引伸
露出時間						鏡玉と紋	
現像薬法						印畫紙と寸法	
定着薬法						焼付時間	
						現像薬	

写真4

写真5、写真6が複数枚あった。写真6は暦の本文の一ページであろうか。

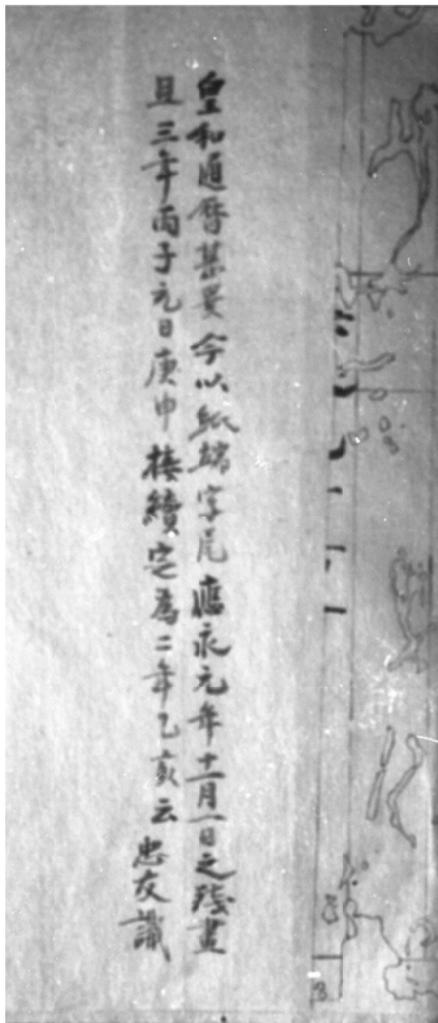


写真5

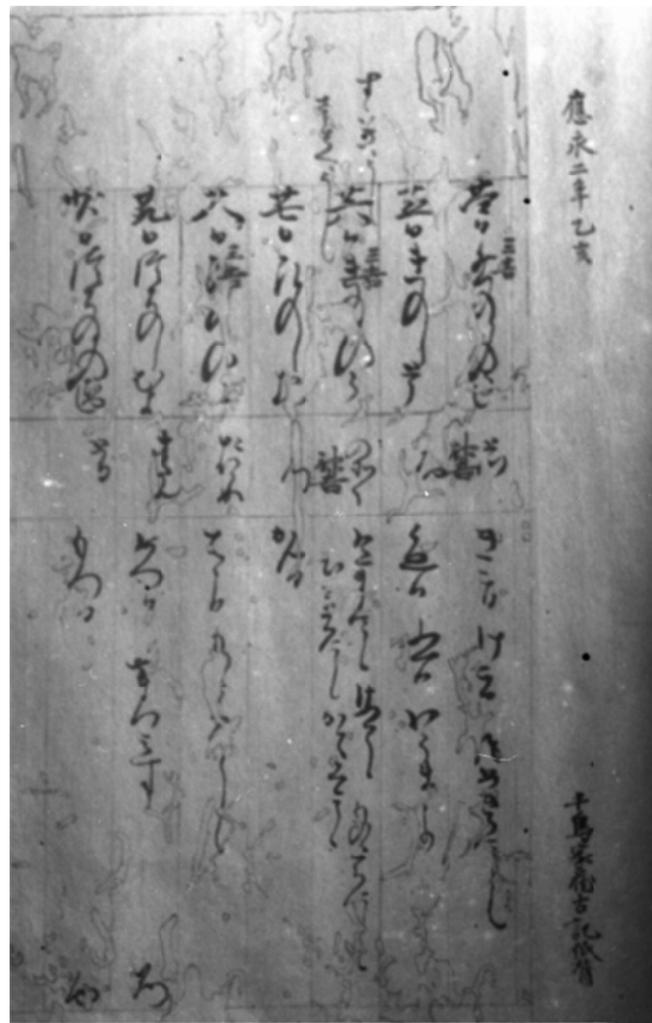


写真6

この箱には、6枚の乾板が入っていたが、この2枚がそれぞれ複数枚入っていた。

これらアーカイブ室新聞の記事にお気づきのことがあれば、編集者中桐にご連絡いただければ幸いです。中桐のメールアドレスは、arcnaoj@pub.mtk.nao.ac.jp